

東洋大学学術情報リポジトリ Toyo University Repository for Academic Resources

「満州国」における中国語雑誌全体像を巡って

| | |
|------|---|
| 著者 | 史 東陽 |
| 著者別名 | Dongyang SHI |
| 雑誌名 | 観光学研究 |
| 巻 | 19 |
| ページ | 79-100 |
| 発行年 | 2020-03 |
| URL | http://doi.org/10.34428/00011827 |

「満州国」における中国語雑誌全体像を巡って

Comprehensive Survey of Chinese Magazines During Manchuria

史 東 陽
Dongyang SHI

〔要旨〕

ここ10年来日本では、『満洲国出版目録』復刻版シリーズ、『満洲出版史』など、「満州国」出版に関する研究の集大成といえる成果が出版されている。日本における研究成果は日本語出版物を対象とするものが多く、中国語の出版物に触れているものは少ない。中国側の関連研究については、2017年1月に華東師範大学劉曉麗教授が編集した34巻からなる『偽満洲時期文学資料整理与研究』叢書が研究史上画期的業績として評価されている。その史料巻には文学雑誌及び新聞の文芸副刊目録が含まれているが、「満州国」中国語雑誌に対する通史的書誌的研究成果が見当たらない。

本稿は『東北地方文献聯合目録』及び『満洲年鑑』などの関係資料を整理したうえ、「『満州国』中国語雑誌一覧表」を作成し、「満州国」における中国語雑誌出版の全体像を描いたものである。

〔キーワード〕

「満州国」、出版、中国語雑誌

一. はじめに

「満州国」における中国語雑誌の歴史を研究する際に、いつ、どこで、どのような雑誌が発行されたか、というような事実関係を究明する必要があるだろう。しかし、残念なことに本研究領域においては、未だにこのような基本的な研究作業が十分になされていない。

そもそも通史的な研究は、研究対象となる現物などの一次資料に対する発掘調査と、関係情報を記載した二次資料の利用があいまって行われるものであるが、現時点では一次資料の所在事情でさえ究明されていないため、発掘調査が極めて困難な状況にある。その背景には、「満州国」で出版された中国語雑誌が当時大量に日本に持ち込まれることはなかったためか、現在の日本の図書館で見られることがまれで、極めて希少であるという事情がある。一方、中国について言えば「満州国」中国語雑誌の原本は中国東北地方の諸図書館に散在している状況であるが、1980年代までは「満州国」に対する歴史認識による人為的な原因もあり、「満州国」雑誌研究はタブーとされ、研究対象となる雑誌原本も大切に保存されなかったり、未発掘のまま放置されたりしていた。1980年代以降、地道な発掘調査作業が研究の出発点として始められたが、最も注目すべき先行研究としては次の三つが挙げられる。

1. 『東北地方文献聯合目録（第一輯報刊部分）』¹（以下『目録』と称す）である。これは、中国東北における17の主要図書館が、それぞれ所蔵している1900年から1949年までの新聞と雑誌

誌を収録範囲として作成した目録である。「満州国」における中国語雑誌が202件収録され、現在各図書館の内部資料として使用されている。「満州国」における出版物の研究にとって唯一無二の二次資料とされている。

2. 『中国淪陷区文学大系（史料巻）』²は、「満州国」における中国語雑誌（芸文誌と芸文欄を含む総合雑誌）の80種類にも言及している。中では『東北地方文献聯合目録』に記されていないものも40種類ほど含まれている。
3. 『東北現代文学大系（資料索引巻）』³は、1919年から1945年の26年間に於ける、中国東北地方における現代文学に関する出来事を年別にまとめたものであり、「満州国」時代の雑誌56種類について触れている。中には1、2の先行研究に言及されていないものも8種類ほど含まれている。

上記の先行研究のうち、2と3は文学史研究の視点からなされている研究であり、文学関係以外の雑誌が含まれていないため、雑誌の通史的研究としては不十分なことは言うまでもない。1の『目録』は最も網羅的で完全な二次資料として評価すべきであるが、以下の問題点があることも否めない。

第一に、『目録』そのものの価値は収録された資料がどの程度網羅的であるかによるが、「満州国」における雑誌について言えば「満州国」が滅びてから40年間、歴史的背景から図書館の隅に未整理のまま放棄され、また人為的な原因により散逸したケースも多いため、この『目録』は必ずしも「満州国」雑誌出版の全貌を反映しているとは言えない。筆者が『目録』に収録されている「満州国」中国語雑誌202件について取り上げて調べたところ、『目録』に収録された雑誌には官庁による統計、調査、研究などの資料とした雑誌が多く含まれていた。また、1、2号しか出されていない文学同人雑誌及び小中学校の学校内刊行物も数多く含まれている一方で、刊行時に『満洲国』の発行部数を誇っていた『斯民』⁴などのような代表的な大衆向けの雑誌が収録されていないことが判明した。

第二に、『目録』においては出版言語の区別はあるが、日本語と中国語の区別があるのみで、「中国語日本語」などの両言語、多言語によるものはそれが明記されていない。

第三に、各図書館における所蔵資料が不完全なためか、創刊及び廃刊年月が不明なものが多数含まれている。特に「満州国」時代の定期刊行物の刊行年月は一般に「大同〇〇年」、「康德〇〇年」と表記されたため、それを西暦に換算する際に誤りが起きやすい。例えば、『満洲教育』は康德2年6月（1935年6月）の創刊であるが、それを「1934年6月」と間違え、逆に「1937年1月号は3巻1号」と正しく数えられている。これは各図書館の所蔵資料を『目録』編集者に提供する際の係員のミスによるものだと考えられる。

第四に、『目録』は収録範囲が1900-1949であり、しかも配列は頭文字の画数順であるため、図書館所蔵資料の記録としては整理しやすく、検索にも便利とは言え、「満州国」における中国語雑誌出版の関連性およびその全体像を直感的に把握することができない。

筆者はこのような先行研究の実態を踏まえながら、諸先行研究に言及されていない『満洲年鑑』、『満洲国現勢』、『満配月報』など、「満州国」当時に刊行された雑誌に目を向け、そこに掲載された「満洲国」民間出版物に関する年別統計表などの二次資料を利用して、中国語雑誌に関する動態的情報を探り出して考察してみた。本稿では雑誌出版の関連性および雑誌出版の動向を読み取れるよ

うに、それらの中国語雑誌を、発行地別を横軸に、創刊年代別を縦軸に配列した。それにより、「満州国」における中国語雑誌出版の全体像を動態的に再現させ、独自に「『満州国』における中国語雑誌一覧表」（以下「一覧表」と称す）を作成し、さらに「一覧表」から見た「満州国」中国語雑誌の出版動向についても分析しようと試みた。以下先ず『満洲年鑑』および『満洲国現勢』などの参考資料の特徴について述べておきたい。

二. 「一覧表」の参考資料について

1. 『満洲年鑑』

1933年『満蒙年鑑』より改題し、日本満洲文化協会によって刊行された年鑑類の雑誌である。1936年から1944までの9巻は満洲日日新聞社、1945年版は満洲日報奉天支社によって刊行されている。1933年から1945年の13年間に、それぞれ1933年、1936年、1937年、1938年、1939年、1940年、1941年、1942年、1943年、1944年、1945年において、合計11冊出版された。いずれも「満州国」の政治・経済・文化教育・産業などに関する調査、統計などの資料が掲載されているため、各領域の「満州国」研究の基本的な参考資料として重要視されている。「満州国」の出版事業に関しては、1945年版を除く毎号に、定期刊行物に対する調査を統計表にして掲載されている。これらの統計表は本稿におけるもっとも重要な資料であるため、大いに参考にした。具体的なものは次のとおりである。

- (1) 「日本側発行時事掲載出版物一覧表（昭和7年10月現在）」、「日本側発行定期刊行物一覧表（時事掲載せざるもの、昭和7年10月現在）」⁵
- (2) 「日本側定期刊行物一覧表（時事掲載、昭和10年9月末現在）」、「日本側発行定期刊行物一覧表（時事不掲載、昭和10年8月末現在）」、「(満洲国)民間定期刊行物表（康德2年9月1日現在）」⁶
- (3) 「日本側定期刊行物一覧表（時事掲載、昭和11年9月現在）」、「日本側発行定期刊行物一覧表（時事不掲載、昭和11年9月現在）」、「(満洲国)民間定期刊行物表（康德3年9月現在）」⁷
- (4) 「日本側定期刊行物一覧表（時事掲載、昭和12年9月現在）」、「日本側発行定期刊行物一覧表（時事不掲載、昭和12年9月現在）」、「(満洲国)民間定期刊行物表（康德3年9月1日現在）」⁸
- (5) 「満洲民間定期出版物一覧表（康德5年6月現在時事掲載物）」、「満洲民間定期出版物一覧表（康德5年6月現在時事無掲載物）」、「日本側定期刊行物一覧表（時事掲載、昭和12（マ）年9月現在）」、「日本側発行定期刊行物一覧表（時事不掲載、昭和12年9月現在）」⁹
- (6) 「満洲国民間定期出版物一覧（康德6年3月）」¹⁰
- (7) 「民間定期出版物（康德7年3月現在）」¹¹
- (8) 「民間定期出版物（康德8年4月現在）」¹²
- (9) 「民間定期出版物（康德9年10月末日現在）」¹³
- (10) 「民間定期出版物（康德10年10月末日現在）」¹⁴

上記の統計表には、前年度に刊行された新聞雑誌などの定期刊行物について、「題名・許可年月日・発行地・発行人・発行期時（発行頻度）、用語（使用言語）」などの内容が記されており、現時点で筆者が確認している限りもっとも詳細な記録である。従って、本稿の「『満州国』中国語雑誌一覧表」を作成する際も、これらを基にしている。

ただし、これらの資料には不足点ないし問題点も見られる。

第一に、読みにくいことである。1938年までには新聞と雑誌の区別がなく、刊行頻度だけでは新聞・雑誌のいずれかを見分けることができない。その後、1939年版以降区別して記載されているが、それまでに廃刊となった新聞雑誌を見分けることは不可能である。また配列順序が一致しないため、利用しにくいというえに誤植が多く、それだけでは識別できない場合もある。

第二に、断片的である。上記の統計表類はいずれも年別的な記録であるため、情報が断続的なものになっており、持続的に刊行される定期刊行物に関する記録としては連続性に欠けている。また、1943年までの資料しかなく、それ以降のものについては判断できない。

これらの問題を踏まえたうえで、本稿においては上記の統計表に記された中国語（あるいは中国語を含む）雑誌を一つ一つ取り上げ、「満州国」における中国語雑誌の全体像を描き出すを試みる。

2. 『満洲国現勢』

「満州国」通信社によって出版された年鑑で、それぞれ1933年、1935年、1936年、1937年、1938年、1939年、1940-1941年（合本）、1942年、1943年に一冊ずつ出されている。これも上記の『満洲年鑑』と同類のものであるが、雑誌に関する統計資料は、1939年以降の四冊にしか掲載されておらず、1938年～1942年年までの雑誌情報だけしか確認できていない。そのうえ雑誌に関しては、「題名・発行地・発行時期（発行回数）・用語」しか記されていない。従って、『満洲年鑑』と比べれば、掲載事項が少ないといえよう。ただし、1942年版に掲載されている「満洲主要雑誌一覧（康德8（1941）年7月調べ）」だけは雑誌名、発行地、発行人のほか、「内容概略・形体（体裁）・価格」まで詳しく記されているため、本稿の貴重な資料となっている。

上記のほか、『満配月報』¹⁵に掲載された「満洲国主要雑誌目録」¹⁶は一回しかないが、これも「誌名・発行所・内容概要・発行回数・形体頁数・定価・用語」と、記載内容が豊富であるため、上記の資料には不明な点がある場合、その検証物として利用した。もちろん、そういう点においては諸先行研究も大いに参考としている。

三. 「一覧表」の構成内容

1. 収録範囲

「一覧表」は、参考資料に掲載された中国語及び中国語を含む（例えば、中国語・日本語の二言語、中国語・日本語・蒙古語の三言語、中国語・日本語・ロシア語・蒙古語の四言語のような）多言語による雑誌を収録範囲としている。

地域的には「関東州（現在の大连）及び満鉄附属地」などの「関東庁」管内を除き、「満州国」

管内の領域において発行されたもの、また、創刊当時は「関東庁」管内に属したが、その後の治外法権の撤廃により、「満州国」管内に移したものを収録範囲としている。「関東庁」や大使館などの管轄下に置かれたものは収録していない。

2. 記載事項

「誌名・発行所・創刊年月（終刊年月）・発刊頻度・使用言語・発行人・内容分類（掲載事項）」などの出版事項を基本内容としている。また「誌名・発行地・発刊頻度・使用言語・発行人」などについては、原則として創刊当時の状況を記している。ただし「使用言語」と「掲載事項」に関する記載は、1939年版の『満洲年鑑』に掲載された1938年6月の時点に調べた「満洲民間定期刊行物」に記されたのが最初のものであり、それ以前の事情については少数を除けば、ほとんど確認できていない。従って1938年6月前に創刊されたものについては、1938年6月当時に確認された状況を示している。

「終刊年月」については、上記の参考資料には記されていないため、『東北地方文献聯合目録』（1981）を参考にし、さらに、筆者が蒐集した雑誌の記載事項によって確認できた箇所だけを記載した。確認できないものについては、上記参考資料に掲載された最後の年月を「備考」欄に記載し、少なくともその当時は刊行し続けていたことを示した。

なお時代の変遷に従って、発行人・発行地・使用言語・発刊頻度出版事項が変更されたこともあった。そのため変更については、確認できる限り時代順に列挙した。

3. 配列順序

「発行地」・「創刊年月」の順に配列している。

(1) 「発行地」別

まず、発行地別に発行された雑誌数の多い順に配列している。地名は「満州国」当時に使用されていた名称を用いる。新京、奉天、哈尔滨（ハルピン）はそのまま、ほかの都市名、県名の前に「省」名を付加している。なお便宜上、奉天市と奉天省に属する場所は同一の発行地としている。

(2) 「創刊年月」別

同じ地域で刊行されたものは、「創刊年月」の早い順に配列し、「月」が確認できないものは、原則としてその「年」の最後に配列する。

4. 符号

「.」 「年」と「月」

「？」 資料に記されているままに掲載したが、疑問の残る事項

「・」 発行所、発行頻度、使用言語、発行人などの変更

「()」 補足説明

「／」 並立する事項

四. 「満州国」における中国語雑誌一覧表

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|--------------------------|--------------------------|-----------------------|------------|-------------------------|-----------------------------------|---|-------------------------------|
| 学校通信 | 新京中学 | 1933.5.23 | 四月刊 | 中国語 | 矢沢邦彦 | 教育 | 1939.3 |
| 大亜協和月報 | 新京 大亜協和月刊総社 | 1933.8.31 | | 中国語 | 段鵬飛 | 政治 / 社会 (時事文芸総合) | 1943.10 |
| 斯民 | 新京 斯民社・ 満洲国通信社 | 1934.3.1 － 1941.5 | 半月 | 中国語・ 中国語 日本語 ? | 福家俊一・ 松田嘉吉・ 松本於菟男・ 長沢千代造 | 政治 / 社会 (写真、論文、 文芸、一般時事) | 1938.6 からは 中国語 日本語 |
| 回光月刊 | 新京 伊斯蘭協会 | 1934.5.2 | 月刊 | 中国語 | 韓鵠淵 | 宗教 (布教) | 1940.3 |
| 満洲体育 | 新京 民政部満洲第満洲 帝国体育聯盟 | 1934.10.12 | 二月刊 | 中国語 | 于希渭・ 八巻孝四郎 | 体育 (運動競技、 体育一般) | 1942.10 |
| 法曹雑誌 | 新京 司法部法曹会 | 1934.10.23 | 月刊 | 中国語 日本語 | 新開勝芳 | 法律 (論文、判 例、資料紹介、 時事掲載は 1938.6 迄) | 1943.10 |
| 中衛 | 新京中銀 | 1934.12.13 | 二月刊 | 中国語 | 王兆璐 | 商業 / 経済 | 1940.3 |
| 内外経済情報 | 新京 日満実業協会 満洲支部 | 1935.2.4 | 月刊 | 中国語 | 三浦一 | 商業 / 経済 | 1943.10 |
| 満洲統計 | 新京 | 1935.3.6 | 月刊 | 中国語 日本語 | 劉長貴 | 商業 / 経済 (論 文、判例、資料 紹介、時事掲載) | 1938.6 |
| 満洲鉱業協会 会報 | 新京 | 1935.3.19 | 月刊 | 中国語 日本語 | 白銘璋・ 孫干蓮 | 工業 / 交通 / 科 学 (時事掲載 1938.6 迄) | 1943.10 |
| 金融合作社 | 新京 | 1935.7.25 | 月刊 | 中国語 日本語 | 安富春・ 周瑛・ 佐久間正春 | 商業 / 経済 (時 事掲載は 1938.6 迄) | 1941.4 |
| 満洲教育 | 新京 民政部満洲帝国 教育会 | 1935.8.8 | 二月刊・ 月刊 | 中国語 | 趙徳健・ 何広珠 | 教育 (教育理論、 指導、時事掲載 は 1938.6 迄) | 1939.3 迄は現 在名 |
| 建国教育 | 新京 民政部満洲帝国 教育会 | 1935.8.8 － 1944.11 | 月刊 | 中国語 | 何広珠・ 建川有司 | 教育 (教育理論、 教育指導) | 1939.11 上 記 『満洲教育』 の改題。 |
| 満洲経済情報 | 新京 日満実業協会 満洲支部 | 1935.9.26 | 半月刊 | 中国語 | 三浦一 | 商業 / 経済 | 1943.10 |
| 満洲電信電話 株式会社 新居管理局報 | 新京 満洲電電 | 1935.10.21 | 旬刊 | 中国語 日本語 | 秋元興三・ 寺元春男 | 工業 / 交通 / 科 学 | 1943.10 |
| 登記研究 | 新京 司法部 満洲登記学会 | 1935.11.5 | 月刊 | 中国語 | 戚文煥 | 法律 (時事掲載 は 1938.6 迄) | 1941.4 |
| 南嶺 | 新京 大同学院 | 1935.11.19 | 月刊 | 中国語 日本語 | 曾格・ 森山正 | 教育 | 1941.4 |
| 満洲聖公会報 | 新京 聖公青年会 | 1935.11.22 | 月刊 | 中国語 | 久泉清・ 今泉忠原 | 宗教 | 1940.3 |

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|----------------|---------------------|----------------------|-------------------|------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------------|
| 協和会誌 月刊 | 新京 | 1935.12.28 | 月刊 | 中国語 日本語 | 張翰青 | 政治／社会（時事掲載は 1938.6 迄） | 1938.6 |
| 新京図書館月報 | 満鉄新京図書館 | 1936.5.14 | 月刊 | 中国語 日本語 | 山崎末治郎 | 書誌 | 1943.10 |
| 満州学童 （低学年用） | 新京 満洲帝国教育会 | 1936.6.17 －1945.2 | 月刊 | 中国語 | 趙徳健・ 何広珠 | 教育（時事掲載は 1938.6 迄） | |
| 最高法院判決例 | 新京 法曹会 | 1936.6.17 | 月刊・ 季刊・ 二月刊 | 中国語 日本語 | 查厚培・ 衛成志・ 新開勝芳 | 法律 | 1943.10 |
| 金融経済月報 | 新京中銀 | 1936.6.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 王兆璐 | 商業／経済（時事掲載は 1938.6 迄） | 1942.10 ない。 改題か |
| 満洲物価調べ | 新京中銀 | 1936.6.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 析倉正一 | 商業 経済 | 1943.10 |
| 内務資料月刊 | 新京 興亜印刷局支店 | 1936.8.4 | 月刊 | 中国語 | 楊顕卿 | 商業／経済（時事掲載は 1938.6 迄） | 194.10 |
| 地方行政 | 新京 満洲行政学会 | 1936.8.12 | 月刊 | 中国語 | 大谷仁兵衛 | 政治／社会 | 1943.10 |
| 地友会雑誌 | 新京協和会 | 1936.9.1 | 月刊 ・二月刊 | 中国語 日本語 | 佟希曾・ 王俊楷 | | 1943.10 |
| 新京社会事業 | 新京市公署 | 1936.9.10 | 月刊 | 中国語 日本語 | 王傳岩・ 王世遠 | 政治／社会（時事掲載は 1938.6 迄） | 1940.3 |
| 業務研究 | 新京中銀 | 1937.3.9 | 二月刊 | 中国語 | 于済沢・ 王兆璐 | 商業／経済 | 1940.3 |
| 満洲特産月報 | 新京 | 1937.4.1 | 月刊 | 中国語 | 川合正勝・ 小林五郎 | 商業／経済 | 1940.3 |
| 協同 | 新京 満洲国官吏 消費組合 | 1937.4.1 | 半月刊 | 中国語 | 岩田公六郎 | 商業／経済（時事掲載は 1938.6 迄） | 1940.3 |
| 新京商況月刊 | 新京 | 1937.5.15 | 月刊 | 中国語 日本語 | 王錫廷・ 王荊山 | 商業／経済 | 1940.3 |
| 満洲衛生 事情通報 | 新京 | 1937.7.19 | 月刊 | 中国語 日本語 | 婁国珠 | 医学／衛生（時事掲載は 1938.6 迄） | 1941.4 |
| 満洲公衆 保健協会雑誌 | 新京 | 1937.7.19 | 月刊 | 中国語 日本語 | 木戸栄 | 医学／衛生 | 1942.10 新 登 載。上からの 改題 |
| 小学生倶楽部 | 新京 | 1937.7.19 | 月刊 | 中国語 日本語 | 傅麟青 | 教育（時事掲載は 1938.6 迄） | 1942.10 |
| 明道 | 新京 国務院 | 1937.7.19 | 月刊 | 中国語 日本語 | 葉参 | 政治／社会（時事掲載は 1938.6 迄） | 1943.10 |
| 満洲商業界 | 新京 | 1937.7.30 | 月刊 | 中国語 | 単善 | 商業／経済（時事掲載は 1938.6 迄） | 19403 |
| 興友 | 新京興銀 | 1937.8.5 | 二月刊 | 中国語 日本語 | 呉秉鈞 | 商業／経済 | 1941.4 |
| 経済 | 新京 經濟部経済協会 | 1937.8.5 | 月刊 | 中国語 日本語 | 姜文濤・ 古木隆蔵・ 長谷川進 | 商業／経済（時事掲載は 1938.6 迄） | 1943.10 |

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|-------------------|-----------------------------------|----------------------------------|------------|------------|---------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|
| 満洲通信協会 雑誌 | 新京 郵政部総局 満洲通信協会 | 1937.10.29 | 月刊 | 中国語 日本語 | 蔵又青 | 工業／交通／科学（時事掲載は1938.6） | 1943.10 |
| 満洲映画 | 新京 満洲映画協会・ 大陸講談社・ 満洲雑誌社 | 1937.10.30 － 1941.5 | 月刊 | 中国語 | 杉原致・ 飯田秀世・ 桜庭政雄 | 映画／音楽 | |
| 警友 | 新京 満洲国警察協会 | 1938.2.4 | 月刊・ 半月刊 | 中国語 | 今川嘉高・ 阿部正雄・ 尹久忠・ 横山八五郎 | 政治／社会（満 系警察に対する 訓話、時事解説、 文芸） | 1943.10 日本語版、ロ シア語版ある |
| 警友報 | 新京 満洲国警察協会 | 1938.2.4? (1939.1 創 刊の説あり) | 月刊・ 半月刊 | 中国語 | 今川嘉高・ 阿部正雄・ 尹久忠・ 横山八五郎 | 政治／社会（満 系警察に対する 訓話、時事解説、 文芸） | 1943.10 |
| 満洲重工業開発 株式会社社報 | 新京 満洲重工業開発 | 1938.4.12 | 旬刊 | 中国語 日本語 | 杉浦平八・ 下田一夫 | 工業／交通／科学 | 1943.10 |
| 満洲婦人国防 | 新京 満洲国国防婦人会 本部 | 1938.5.6 | 月刊 | 中国語 | 伏見鎮・ 保科貞次 | 政治／社会（会 員連絡、国防思 想普及、修養） | 1943.10 |
| 満映配給部通信 | 新京 満映 | 1938.6.30 | 半月刊 | 中国語 日本語 | 岡村章・ 飯田秀世 | 映画／音楽 | 1940.3 |
| 東方医学雑誌 | 新京医学大学 | 1938.7.13 | 月刊 | 中国語 | 袁淑範 | 医学／衛生 | 1940.3 |
| 産業部協和会報 | 新京 産業部 | 1938.7.13 | 二月刊 | 中国語 日本語 | 久保勝雄 | 政治／社会 | 1940.3 |
| 満洲医学 | 新京 | 1938.7.21 | 月刊 | 中国語 | 城島徳壽 | 医学／衛生 | 1940.3 |
| 採金 | 新京 満洲採金株式会社 | 1938.8.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 三木広一・ 星野幹 | 工業／交通／科学 | 1940.3 |
| 新京商工月報 | 新京 | 1938.8.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 丁鑑修 | 商業／経済（経 済関係時事掲載 は1939.3迄） | 1940.3 |
| 新京商工公会 会報 | 新京 | 同上 | 月刊 ・旬刊 | 中国語 | 同上 | 同上 | 1940.3 |
| 排共 | 新京 | 1938.9.12 | 半月刊 | 中国語 | 呂作新 | 政治／社会（一 般時事掲載あり） | 1941.4 |
| 東辺道開発 株式会社社報 | 新京 | 1938.11.10 | 旬刊 | 中国語 日本語 | 中山国男 | 農業／開拓 | 1939.3 |
| 放送満洲 | 新京 | 1938.11.15 | 月刊 | 中国語 | 西牟田清武 | （一般時事掲載 1939.3迄） | 1941.4 |
| 軍医団雑誌 | 新京 満洲帝国軍医団 1939 頃奉天から 移転 | 1938.12.12 | 二月刊 | 中国語 日本語 | 山本昇 | 医学／衛生 | 1942.10 |
| 新満洲 | 新京 満洲図書株式会社 | 1938.12.26 － 1945.4 | 月刊 | 中国語 | 駒越五貞 | 政治／社会（論 説、一般時事、 文藝、総合文化） | |
| 健康満洲 | 新京 満洲結核予防協会 | 1939.1.5 | 月刊 | 中国語 | 正岡輝・ 田中武・ 吉積泰 | 医学／衛生（結 核予防の研究、 文芸、娯楽） | 1943.10 |

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|------------------|--|------------------------|-------------|-------------------|---------------|---------------------------------------|---------------------------------|
| 興亜 | 新京（創刊は奉天 日本日ソ通信社、 1941 年移転の説 もある） | 1939.3.13 －1943.10 | 月刊 | 中国語 | 関毅・ 下平永男 | 政治／社会（論 説、文芸、時事 掲載） | 創刊は 1936.7 の説もある。 1943.10 |
| 満洲銀行協会 会報 | 新京 | 1939.2.2 | 三月刊 | 中国語 日本語 | 王荊山 | 商業／経済 | 1941.4 |
| 進誼会報 | 新京 南嶺中央気象局 | 1939.2.10 | 月刊 | 中国語 日本語 | 陳勤 | 工業／交通／科 学 | 1941.4 |
| 仁愛 | 新京 満洲国赤十字社 | 1939.2.27 | 月刊 | 中国語 日本語 | 孫世法 | 政治／社会（社 況、家庭医学、 文芸） | 1942.10 |
| 大同仏教 | 新京 満洲大同仏教總會 | 1939.3.23 | 三月刊 | 中国語 日本語 | 入野契則 | 宗教 | 1940.3 |
| 株式会社 大興公司社報 | 新京 | 1939.4.28 | 月刊 | 中国語 日本語 | 青柳徳太郎 | 商業／経済 | 1942.10 |
| 蒙古研究 | 新京 国務院 | 1939.7.3 | 二月刊・ 不定期 | 中国語 蒙古語 日本語 | 竹村茂昭・ 橋本重雄 | 政治／社会（時 事 掲 載 は 1942.10 から） | 1943.10 |
| 満洲の能率 | 新京 満洲能率協会 | 1939.7.21 | 二月刊 | 中国語 日本語 | 玉名勝夫 | 商業／経済（産 業事務の能率研 究、報告） | 1942.10 |
| 漫画満洲 | 新京 満洲漫画同人社・ 満洲社 | 1939.8.11 －1941.3 ? | 月刊 | 中国語 日本語 | 池辺貞喜 | 文化／文芸（漫 画による時事解 説、善導） | 1941.5 から下 へ改題 |
| 国民画報 | 新京 満洲社・ 芸文社・ 国民画報社 | 1941.5 －1942.6 ? | 月刊・ 半月刊 | 中国語 日本語 ? | 池辺貞喜 | 政治／社会（漫 画、写真による 時事解説、文芸） | 1941.5 漫画満 洲から改題。 1943.10 |
| 道德月報 | 新京満洲帝国 道德總會 | 1939.9.16 | 月刊 | 中国語 | 岳興華 | 政治／社会 | 1940.3 |
| 満洲鉱山 株式会社社報 | 新京満洲鉱山会社 | 1939.10.30 | 月刊 | 中国語 日本語 | 宮元知行 | 工業／交通／科 学 | 1943.10 |
| 満洲学童 (高学年用) | 新京 民政部 | 1939.10.30 －1945.2 | 月刊 | 中国語 | 何広珠・鍵川 有司 | 教育 | |
| 計量 | 新京 満洲計量器会社 | 1939.12.25 | 月刊 | 中国語 日本語 | 前山接策 | 商業／経済（時 事経済解説、度 量衡常識、販売 の連絡） | 1943.10 |
| 満映画報 | 新京 | 1940.1.9 | 月刊 | 中国語 日本語 | 長谷川潜 | 映画／音楽 | 1941.4 |
| 満洲法律時報 | 新京 | 1940.1.26 | 半月刊 | 中国語 | 大内成美 | 法律（時事掲載 あり） | 1943.10 |
| 陸軍軍医団報 | 新京 陸軍医学校 | 1940.2.13 | 二月刊 | 中国語 日本語 | 渋谷育造 | 医学／衛生 | 1941.4 |
| 満洲社会事業 | 新京 民政部 | 1940.5.7 | 月刊 | 中国語 日本語 | 于長運 | 政治／社会 | 1943.10 |
| 満洲国語 | 新京 満洲国語研究会 | 1940.5 | 月刊・ 二月刊 | 中国語 日本語 | 陳邦直 | 教育 | 第 8 号 は 1941.3 |
| 満洲仏教總會 会報 | 新京 | 1940.9.17 | 二月刊 | 中国語 | 釈樹培 | 宗教 | 1943.10 |
| 満洲穀粉管理 株式会社社報 | 新京 | 1941.1.18 | 2 月刊 | 中国語 日本語 | 和田輝義 | 商業／経済 | 1941.4 |

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|--------------------------|-----------------------|------------------------|------|-------------|-----------------------------|-----------------|---------------------------|
| 電影画報 | 新京 満洲雑誌社 | 1941.6 －1944.10 | 月刊 | 中国語 | 顧永運・ 李甲賓・ 陳守榮 | 映画／音楽 | |
| 麒麟 『斯民』から 改題 | 新京 満洲雑誌社 | 1941.6 －1945.4 ? | 月刊 | 中国語 | 顧永運・ 唐則堯・ 黄曼秋・ 劉玉璋 | 文化／文芸 | |
| 満洲電信電話 株式会社 新京管理局報 | 新京 | 1941.12.5 | 週刊 | 中国語 日本語 | 寺本春男 | 工業／交通／科学 | 1943.10 |
| 国通写真特報 | 新京 | 1942.1.12 | 旬刊 | 中国語 | 満洲国通信社 | 政治／社会（時事掲載あり） | 1943.10 |
| 医林 | 新京 | 1942.2.17 | 二月刊 | 中国語 | 満洲中央漢医 会 | 医学／衛生 | 1943.10 |
| 康德新聞社社報 | 新京 | 1942.2.28 | 月刊 | 中国語 日本語 | 康德新聞社 | 政治／社会（時事掲載あり） | 1943.10 |
| 新潮 | 新京 満洲経済社 | 1943.1.29 －1945.2 | 月刊 | 中国語 | 渡辺俊春 | 政治／社会 | 終刊は 1944.12の説 もある |
| 青年文化 | 新京満洲 青少年文化社 | 1943.8.16 －1945.1 ? | 月刊 | 中国語 | 王恒仁 | 文化／文芸 | |
| 芸文誌 | 新京 芸文書房 | 1943.10.10 －1944.10 | 月刊 | 中国語 | 宮川靖五郎 | 文化／文芸（文芸誌） | |
| 技術青年 | 新京 | 1943.10.10 | 月刊 | 中国語 | 万戸正克 | 工業／交通／科学 | 1943.10 |
| 勤労 | 新京 | 1943.10.25 | 半月刊 | 中国語 | 岡田菊次郎 | 政治／社会 | 1943.10 |
| 大同文化 | 奉天 満洲文化協会 奉天事務所 | 1922.3.28 －1936.6 | 月刊 | 中国語 | 石田貞蔵・ 佐藤豊四郎 | 文化／文芸（一般時事掲載あり） | 1935.4 新京へ、 1936.3 大連へ |
| 奉天商工新報 | 奉天 | 1922.3.31 | 半月刊 | 日本語・ 中国語 | 神山哲三 | 商業／経済 | 1938.6 |
| 奉天商工公会 調査月報 | 奉天 | 1924.5.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 加藤治雄 | 商業／経済（一般時事掲載あり） | 1942 下へ改題 |
| 奉天省経済季報 | 奉天 | 1924.5.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 加藤治雄 | 同上 | 1943.10 |
| 医学原著索引 | 奉天 | 1924.8.12 | 月刊 | 中国語 | 成田昌徳 | 医学／衛生 | 1939.3 |
| 永安 | 奉天 | 1926.11.7 | 四月刊 | 中国語 | 山口資治 | | 1939.3 |
| 社団法人全満米 穀同業組合月報 | 奉天 | 1927.1.31 | 月刊 | 中国語 | 町野四郎三郎 | 商業／経済 | 1939.3 |
| 満洲薬報 | 奉天 満洲薬剤師会 | 1927.9.2 | 月刊 | 中国語 ? | 榊原勝治 | 医学／衛生（薬学会研究報告） | 1938.6 |
| 撫順図書館報 | 奉天 | 1930.12.27 | 月刊 | 中国語 | 渡辺三三 | 書誌 | 1939.3 |
| 呉富久 | 奉天 | 1931.2.27 | 月刊 | 中国語 ? | 寺尾幸造 | | 1939.3 |
| 満洲福音 ニュース | 奉天 | 1931.4.17 | 季刊 | 中国語 ? | 渡辺守成 | 宗教 | 1939.3 |
| 啓明 | 奉天 | 1931.12.15 | 季刊 | 中国語 | 駒越哲（ママ） 貞? | 文化／文芸 | 1939.3 |
| 子供満洲 | 奉天 | 1931.12.15 | 半月刊 | 中国語 ? | 城島徳壽 | 政治／社会 | 1939.3 |
| 遼陽分会報 | 奉天 | 1932.5.2 | 月刊 | 中国語 | 後藤吉之助 | | 1939.3 |

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|-----------------------|----------------------------|-----------------------|-------------------|--------------------|---------------------|----------------------------|-------------------|
| 南満洲鉄道 株式会社社報 | 奉天 | 1933.4.15 | 不定期 | 中国語 | 加地常弼 | 工業／交通／科学 | 1943.10 |
| 満洲新文化月報 | 奉天 満洲新文化月報社 | 1933.6.20 －1937.8？ | 月刊 | 中国語 | 王者風・ 陳健男 | 文化／文芸 | 1941.4 |
| 奉天晶画報 | 奉天 | 1934.2.1 －1935.10 | 三日刊 | 中国語 | 王巽亢 | 政治／社会 | |
| 同軌 | 奉天 満洲鉄道総局 | 1934.2.16 －1943.12 | 月刊 | 中国語 日本語 | 北條秀一 | 工業／交通／科学（鉄道ニュース、修養、娯楽） | |
| 興満文化月報 | 奉天 興満文化月報社 | 1934.5.2 －1941.12 | 月刊・ 季刊？ | 中国語 | 丁袖東・ 張白虹・ 張宝樹 | 文化／文芸（文化評論、創作発表） | |
| 軍犬読本 『満洲軍犬』と 改題 | 奉天 改題後新京へ | 1934.5.15 | 月刊 | 中国語・ 日本語 | 幸田成 | 軍事（事業報告、 軍犬の研究） | 1940.3 改題後、日本語 |
| 文芸画報 | 奉天 | 1934.7.28 | 三日刊・ 六日刊 | 中国語 | 朱曼 | 政治／社会（宣伝、娯楽） | |
| 康德画報 | 奉天 | 1934.12.24 | 三日刊 | 中国語 | 楊寄萍 | 同上 | |
| 満洲淑女之友 | 奉天 | 1934.12.25 | 月刊 | 中国語 | 陳濟民 | 政治／社会 | 1939.3 |
| 満洲医学大学 時報 | 奉天 | 1935.4.6 | 月刊 | 中国語 | 奥山賢 | 医学／衛生 | 1939.3 |
| 金光教奉天教報 | 奉天 | 1935.5.24 | 二月刊 | 中国語 | 赤松純平 | 宗教 | 1939.3 |
| 加茂小学校 学校新聞 | 奉天 | 1935.6.15 | 月刊 | 中国語 日本語・ 日本語 | 佐藤秋男 | 教育 | 1940.3 日本語 となる |
| 満洲公教月刊 | 奉天 天主教堂 公教印書館 | 1935.7.3 －1940.1？ | 月刊 | 中国語 | 程子修 | 宗教（基督教義 宣揚） | 1943.10 |
| 新青年 | 奉天協和会 新青年社 | 1935.8.8 | 旬刊・ 半月刊・ 月刊 | 中国語 | 申傑 | 政治／社会（政治、 経済、文芸、 雑俎） | 1941.7 迄 刊 行？ |
| 救世月刊 | 奉天 救世軍満洲本部 | 1935.11.25 | 月刊・ 季刊？ | 中国語 | 又生・ 張雲琪 | 宗教（キリスト 教布教、軍務報道） | 1941.4 |
| 遼陽教育会報 | 奉天省遼陽 | 1936.1.15 | 月刊・ 季刊？ | 中国語 | 張肖乾 | 教育 | 1940.3 |
| 演芸館ニュース | 奉天 | 1936.1.31 | 不定期 | 中国語 | 幾田柳吉 | 映画／音楽 | 1939.3 |
| 奉天医科学 専門学校彙報 | 奉天 | 1936.7.11 | 三月刊 | 中国語 | 于光元・ 于守信・ 項顯達 | 医学／衛生 | 1941.4 |
| 初高両級日語 文函授講義録 | 奉天 | 1936.9.10 | 旬刊 | 中国語 | 薛維辟 | 教育 | 1940.3 |
| 満鉄の電気 | 奉天 | 1936.9.14 | 月刊・ 二月刊 | 中国語 | 高部吞・ 塚原懿智三 | 工業／交通／科学 | 1942.10 |
| 醒時報月刊 | 奉天 | 1937.2.1 | 月刊 | 中国語 | 張兆麟・ 張友蘭 | 政治／社会 | 1943.10 |
| 明明 | 奉天省撫順 月刊満洲社 半年後新京へ移転 | 1937.3 －1938.9 | 月刊 | 中国語 | 城島徳壽 | 文化／文芸（時事 掲載総合誌、 文芸誌） | 1937.8 迄大使 館管下 |
| 賽馬之友社 勝馬予想表 | 奉天 | 1937.8.12 | 不定期 | 中国語 | 加地保 | 体育 | 1939.3 |

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|--------------------|----------------|---------------------|------|---------------------------|---------------|----------------|-----------|
| 勝利社の 勝馬予想 | 奉天 | 1937.8.12 | 不定期 | 中国語 | 野尻弥一 | 体育 | 1939.3 |
| 東方歯科 | 奉天 | 1937.9.3 －1945.4 | 三月刊 | 中国語 日本語 | 周宗岐 | 医学／衛生 | 1943.10 |
| 予想表 | 奉天 | 1937.9.6 | 不定期 | 中国語 | 丸田直一 | 体育 | 1939.3 |
| 奉天商工会 統計と月報 | 奉天 | 1937.9.8 | 月刊 | 中国語 | 加藤治雄 | 商業／経済 | 1939.3 |
| 農業改進 | 奉天省海城 | 1937.9.23 | 月刊 | 中国語 | 齊允修 | 農業／開拓 | 1943.10 |
| 鉄道愛護団員時 局認識愛路壁報 | 奉天 | 1937.10.1 | 月刊 | 中国語 日本語 ロシア語 蒙古語 | 広間武雄 | 工業／交通／科学 | 1943.10 |
| 婦女雑誌 | 奉天 | 1937.10.29 | 月刊 | 中国語 | 魏傑 | 政治／社会 | 1941.4 |
| 医科 | 奉天 | 1937.11.4 | 半年刊 | 中国語 | 松井太郎 | 医学／衛生 | 1939.3 |
| 白楊 | 奉天 | 1937.12.30 | 月刊 | 中国語 | 藤巻快教 | 文化／文芸 | 1939.3 |
| 奉天農事合作社 月刊 | 奉天 | 1938.6.16 | 月刊 | 中国語 日本語 | 呉裕泰・ 富永景三郎 | 農業／開拓 | 1943.10 |
| 奉天商工会 会報 | 奉天 | 1938.7.9 | 月刊 | 中国語 日本語 | 加藤治雄 | 商業／経済 | 1941.4 |
| 撫順商工会 会報 | 奉天省撫順 | 1938.7.16 | 月刊 | 中国語 日本語 | 森山環 | 商業／経済 | 1943.10 |
| 月刊瀋水 | 奉天南満中学校 瀋水会 | 1938.8.14 | 月刊 | 中国語 日本語 | 安藤基平 | 教育 | 1943.10 |
| 満洲之弓道 | 奉天 | 1938.11.23 | 三月刊 | 中国語 日本語 | 永田宰 | 体育 | 1943.10 |
| 西安 | 奉天 | 1938.12.12 | 月刊 | 中国語 日本語 | 前川保夫 | | 1941.4 |
| 鞍山商工月報 | 奉天省鞍山 | 1939.1.5 | 月刊 | 中国語 日本語 | 中山正三郎 | 商業／経済 | 1943.10 |
| 鞍山商工会 会報 | 奉天省鞍山 | 1939.1.5 | 月刊 | 中国語 日本語 | 中山正三郎 | 商業／経済 | 1943.10 |
| 遼陽商工会 会報 | 奉天省遼陽 | 1939.4.8 | 月刊 | 中国語 日本語 | 赤松純平 | 商業／経済 | 1943.10 |
| 奉天省商工公 会報 | 奉天 | 1939.4.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 加藤治雄 | 商業／経済 | 1943.10 |
| 営口商工会 会報 | 奉天省営口 | 1939.7.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 河野繁 | 商業／経済 | 1941.4 |
| 奉天交通株式 会社社報 | 奉天省鞍山 | 1940.1.24 | 旬刊 | 中国語 日本語 | 奥田福次郎 | 工業／交通／科学 | 1942.10 |
| 海城商工会報 | 奉天省海城 | 1940.2.14 | 月刊 | 中国語 | 王殿印 | 商業／経済 | 1942.10 |
| 社員保健自治 会報 | 奉天 | 1940.5.6 | 月刊 | 中国語 日本語 | 木多静 | 医学／衛生 | 1943.10 |
| 白楊農誌 | 奉天 | 1940.8.5 | 月刊 | 中国語 | 草皮正慶 | 農業／開拓 | 1942.10 |
| 鉄警 | 奉天 | 1941.2.7 | 月刊 | 中国語 | 原勝太郎 | 工業／交通／科学 | 1942.10 |
| 同軌 | 奉天 満鉄鉄道総局 | 1942.2.16 | 月刊 | 中国語 | 北條秀一 | 工業／交通／科学 | 1943.10 |
| 哈尔滨五日画報 | 哈尔滨 | 1933.8.25 | 五日 | 中国語 | 王崙山 | 政治／社会 | |
| 哈尔滨漢医 研究会月報 | 哈尔滨 | 1937.6.17 | 月刊 | 中国語 | 高仲山 | 医学／衛生 | 1940.3 改題 |

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|-----------------|----------------|------------|------|--------------------|---------------|-------------------------------|--------------------------|
| 濱江省漢医学 月刊 | 哈尔滨 | 1937.6.17 | 月刊 | 中国語 | 高仲山 | 医学／衛生 | 上からの改題 1943.10 |
| 哈尔滨交通 株式会社社報 | 哈尔滨 | 1938.10.18 | 旬刊 | 中国語 日本語 | 市川孝八 | 工業／交通／科 学 | 1943.10 |
| 哈尔滨商工公会 会報 | 哈尔滨 | 1938.12.14 | 月刊 | 中国語 | 程儒堂 | 商業／経済 | 1943.10 |
| 北満経済月報 | 哈尔滨 | 1938.12.14 | 月刊 | 中国語 | 程儒堂 | 商業／経済 | 1941.4 |
| 濱江省経済季報 | 哈尔滨 | 1938.12.14 | 月刊 | 中国語 | 程儒堂 | 商業／経済 | 上からの改題 と推定 |
| 北満医学 | 哈尔滨 | 1939.7.11 | 三月刊 | 中国語 | 石増栄 | 医学／衛生 | 1943.10 |
| 新家庭 | 哈尔滨 新家庭雑誌社 | 1939.11.18 | 月刊 | 中国語 | 隆自天 | 政治／社会（婦 人修養、常識、 娯楽、文芸） | 1941.4 |
| 鐸声 | 龍江省齊 齊哈爾天主堂 | 1937.1.19 | 半月刊 | 中国語 | 甄国治 | 宗教（基督教布 教） | 1943.10 |
| 齊齊哈爾商工 月報 | 龍江省齊齊哈爾 | 1938.8.4 | 月刊 | 中国語 日本語 | 王玉堂 | 商業／経済 | 1941.4 |
| 齊齊哈爾商工公 会報 | 龍江省齊齊哈爾 | 1938.9.30 | 月刊 | 中国語 日本語 | 王玉堂 | 商業／経済 | 1941.4 |
| 商工月報 | 龍江省 | 1939.2.23 | 月刊 | 中国語 | 王炳衡 | 商業／経済 | 1941.4 |
| 克山ノ教育 | 龍江省 | 1939.3.18 | 二月刊 | 中国語 | 傅豫廷 | 教育 | 1941.4 |
| 錦州商工月報 | 錦州省錦州市 | 1938.6.22 | 月刊 | 中国語 | 内野忠蔵・ 真田春男 | 商業／経済（一 般時事掲載は 1939.3迄） | 1941.4 |
| 朝陽教育月報 | 錦州省朝陽市 | 1939.7.17 | 月刊 | 中国語 日本語 | 李学白 | 教育 | 1941.4 |
| 阜新商会会報 | 錦州省阜新市 | 1939.8.3 | 月刊 | 中国語 日本語 | 石塚隆 | 商業／経済 | 1943.10 |
| 師道 | 錦州省錦州市 | 1939.8.11 | 月刊 | 中国語 日本語 | 中村敏男 | | 1941.4 |
| 錦州鉄道局報 | 錦州省錦州市 | 1939.9.6 | 月刊 | 中国語 日本語 | 錦州鉄道局 | 工業／交通 | 1943.10 |
| 吉林農事合作 社彙報 | 吉林省吉林市 | 1938.12.21 | 月刊 | 中国語 日本語 | 焦桐 | 農業／開拓（産 業、経済に關す る時事） | 1940.3 |
| 吉林興農 | 吉林省吉林市 | 1938.12.21 | 月刊 | 中国語 | 焦桐 | 農業／開拓 | 上からの改題 と推定 1942.10 |
| 吉林商工公会 会報 | 吉林省吉林市 | 1939.4.8 | 二月刊 | 中国語 日本語・ 日本語 | 中山子行 | 商業／経済 | 1941.4 日本語となる |
| 滿洲農学会誌 | 吉林省吉林市 | 1939.4.15 | 三月刊 | 中国語 日本語 英語 | 香村岱二 | 農業／開拓 | 1943.10 |
| 熱河教育 | 熱河省承德 | 1935.8.12 | 三月刊 | 中国語 | 湯銘新 | 教育 | 1940.3 |
| 承德教育 | 熱河省承德 | 1937.6.7 | 二月刊 | 中国語 | 王兆栄 | 教育 | 1941.3 |
| 承德商工公会 月報 | 熱河省承德 | 1937.7.13 | 月刊 | 中国語 日本語 | 高毓蕃・ 山根隆三 | 商業／経済 | 1941.3 |
| 滿蒙時報 | 安東省 | 1932.4.12 | 月刊 | 中国語 | 富永徳蔵 | 政治／社会 | 1943.10 |
| 安東商工公会 会報 | 安東省 | 1938.6.10 | 月刊 | 中国語 | 新田忠平 | 商業／経済 | 1942.10 |
| 経済月報 | 安東省 | 1939.9.20 | 月刊 | 中国語 | 新田忠平 | 商業／経済 | 1942.10 |

| 誌名 | 発行地 発行所 | 創刊－終刊 | 発刊頻度 | 使用言語 | 発行人 | 内容分類 (掲載事項) | 備考 |
|----------------|------------|------------|------|-------------------|----------------|----------------------|---------|
| 佳木斯商工公会 会報 | 三江省佳木斯 | 1939.6.27 | 三月刊 | 中国語 日本語 | 曲恩遠 | 商業／経済 | 1940.3 |
| 三江月刊 | 三江省 | 1939.9.19 | 三月刊 | 中国語 日本語 | 盧元善 | | 1942.10 |
| 図們青年 | 間島省 | 1936.7.30 | 不定期 | 中国語 日本語 | 中村功潤 | | 1941.4 |
| 心の泉 | 間島省 | 1938.12.30 | 二月刊 | 中国語 日本語 朝鮮語 | 武田新助 | (一般時事掲載 は1939.3迄) | 1941.4 |
| 牡丹江商工月報 | 牡丹江省牡丹江市 | 1936.12.10 | 月刊 | 中国語 | 大久保弥彦・ 窪田圓平 | 商業／経済 | 1940.3 |
| 牡丹江鉄道局報 | 牡丹江省牡丹江市 | 1939.7.26 | 月刊 | 中国語 日本語 | 中野貞男 | 工業／交通 | 1941.4 |
| 双城堡医学 研究会月刊 | 濱江省双城堡 | 1939.5.29 | 月刊 | 中国語 | 劉北宸 | 医学／衛生 | 1941.4 |

五. 「一覧表」からみた「満州国」中国語雑誌出版動向

「一覧表」に記載されている中国語雑誌は合計189件である。これは「満州国」で発行された中国語雑誌の全てを網羅しているわけではないことを断っておきたい。この「一覧表」の基である『満洲年鑑』、『満洲国現勢』、『満配月報』に掲載された「満州国」出版物目録においては、政府公報や単なる学内刊行雑誌などが省略することとなった。参考資料の「欠陥」もあるが、筆者の力不足も否めないため、現時点に判明できていない雑誌に関しては、今後の課題として調査を続け、新たな発見があれば「一覧表」を補完するつもりである。

ここでは上記の189件を使用言語、内容分類、発行人、発行地創刊年月別にまとめ、さらに関係資料を踏まえながら、「一覧表」から見た中国語雑誌の出版動向について分析しようと試みる。

1. 使用言語別

「一覧表」の雑誌を使用言語別に分けると、中国語106件、「中日」両言語79件、「中日鮮・中日英・中日蒙・中日蒙露」多言語各1件である。このように「満州国」雑誌における使用言語の特徴として、単一言語のほかに、「中日」両言語、さらに多言語による雑誌の存在が見出される。

しかし、それらの多言語による雑誌において、各言語がどれほどの比重を占めていたか、すなわち、各雑誌における役割分担の実態は未だに究明されていない。筆者が蒐集した雑誌の例が示すよう、例えば、『満洲映画』¹⁷は中国語雑誌とされているが、その写真などに対して、中国語と日本語の両方のキャプションが付け加えられたり、日本語の広告がそのまま掲載されたりしている。また逆に日本語雑誌とされている『満配月報』には、中国語の文章の全文がそのまま掲載されたりしている。一方で、『国民画報』¹⁸のうちに、筆者が所有している5冊には、中国語しか使用されていないが、『満洲年鑑』などの資料ではこれを二言語雑誌としている。もちろん雑誌が刊行している間に事情が変わった可能性も十分にあるが、詳しい事情は個別の雑誌を通時的に調査しなければ判明しにくい。

このような問題点があるとしても、多言語複合雑誌がこのように多数存在したことは「満州国」雑誌のひとつの特徴と言えよう。

2. 内容分類

「一覧表」においては雑誌を内容的に「商業経済、政治社会、医学、工業交通科学、教育、文化文芸、宗教、農業開拓、映画音楽、体育、法律、書誌、軍事」と分類したが、その内訳は、商業経済 48 件、政治社会 33、医学 19 件、工業交通科学 18、教育 16 件、文化文芸 12、宗教 9、農業開拓 7 件、映画音楽 5 件、体育 5 件、法律 4 件、書誌 2 件、軍事 1 件、其の他（内容の特定ができていないもの）10 件である。

つまり第一位の経済商業、第二位の政治社会が大部分を占めている。このような傾向は中国語雑誌のみならず、「満州国」における日本語雑誌も同様である。例えば『東北地方文献聯合目録（第一輯報刊部分）』（1981）に収録された日本語雑誌合計 815 件のうち、第一位の経済商業 294 件と、第二位の政治社会の 157 件とで全体の約半数を占めている。従って、このような傾向は「満州国」雑誌全般の特徴と考えられる。

また発行所から見れば、雑誌社によって刊行された総合雑誌及び文芸雑誌の数はそれほど多くなく、全体のほぼ 4 分の 1 しか占めていないのに対して、官庁や会社や団体によるものが圧倒的に大多数を占めている。前者は全て大衆向けの雑誌であるが、後者は満洲軍犬協会の『満洲軍犬』のような「事業報告、軍犬研究」を主とした専門雑誌もあれば、満洲結核予防協会の『健康満洲』、満鉄鉄道総局の『同軌』、満洲帝国警察協会の『警友』などのような専門的な内容と「文芸、娯楽、修養」を兼ねる記事が掲載され、大衆にも親しまれたものもあった。大衆向けの雑誌がそれほど多くなかった「満州国」の中国語雑誌界にとって、これらは無視できない存在であったようである。

3. 発行人

発行人別に見ると 189 件のうち、発行所名を発行人とした 4 件を除けば、日本人 103 件、中国人 72 件、中国人から日本人へと変更されているのは 9 件、日本人から中国人へと変更されているのは 1 件である。このように日本人を発行人とした中国語雑誌のほうが多い。

しかし一般的に発行人には、出資者若しくは官庁及び会社などの団体の責任者が就任して雑誌の経営に関与することが多い一方で、雑誌の編集などの実務に携わるのは概ね編集者たちである。中国語雑誌の編集者には稀に日本人が見られるが、中国人スタッフのほうが多い。雑誌の編集及び経営には、当然両国人の協力も確執もあったと考えられるが、その裏に隠された実情については、個別的な雑誌を考察することに頼るしかないと考えられる。今後の課題として追究していきたい。

4. 発行地

「一覧表」の 189 件をさらに発行地別、創刊年月別にまとめたものが、以下の表 1 である。

「表 1」から、次のような地域的出版動向が読み取れる。

(1) 「満州国」中国語雑誌出版の中心地は新京および奉天である。

地域別に言えば、新京は 90 件、奉天（奉天省を含む）は 63 件、ハルピン（濱江省を含む）10 件、その他 26 件（中には、錦州・龍江各 5 件、吉林 4 件、安東・熱河各 3 件、間島・牡丹江・三江各

表1 地域別・創刊年代別統計表

| | 新京 | 奉天 | ハルピン | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|-----|-----|
| 1932年以前 | | 13 | | | 13 |
| 1932年 | | 1 | | 1 | 2 |
| 1933年 | 2 | 2 | 1 | | 5 |
| 1934年 | 5 | 7 | | | 12 |
| 1935年 | 12 | 6 | | 1 | 19 |
| 1936年 | 9 | 5 | | 2 | 16 |
| 1937年 | 13 | 12 | 2 | 3 | 30 |
| 1938年 | 16 | 6 | 4 | 7 | 33 |
| 1939年 | 15 | 5 | 3 | 12 | 35 |
| 1940年 | 6 | 4 | | | 10 |
| 1941年 | 4 | 1 | | | 5 |
| 1942年 | 3 | 1 | | | 4 |
| 1943年 | 5 | 0 | | | 5 |
| 合計 | 90 | 63 | 10 | 26 | 189 |

2件)であるが、第一位の新京、第二位の奉天をあわせれば、153件にも達し、全体の80%ほどを占めている。

このような傾向は「満州国」における中国語雑誌の出版のみに見られるのではなく、雑誌全体の出版動向だと考えられる。『満洲国現勢』(各年版)に記されたその年の定期刊行物に関する統計を例にしてみよう。もちろん、年別の雑誌在籍数に対する統計からは「満州国」雑誌出版の全体的な傾向が見えにくい恐れがあるが、表1によって示された雑誌創刊件数の急増が表れている「1938年」と「1939年」の統計をみれば、大体の傾向が見えると考えられるため、以下に引用して分析する。

1938年末における雑誌の総数は263件であり、発行地域別の内訳は新京119件、奉天88件、(ハルピンが所属している、筆者注)濱江23件、安東10件、吉林・間島各5件、熱河・龍江・興安北各3件、錦州・牡丹江各2件・三江1件となっているが¹⁹、1939年末の雑誌総数は302件に増え、その内「首都(新京、筆者注)143件、奉天80件、濱江29件、安東10件、吉林間島錦州各8件、龍江5件、三江興北(ママ)各3件、牡丹江熱河各2件、興西(ママ)1件となっており」²⁰、いずれも新京が第一位、奉天が第二位であり、両地域における発行件数を合計すると、全体の70%以上を占めていることが分かる。雑誌の総数とは中国語、日本語、中国語・日本語の両言語、ロシア語、その他の言語による雑誌の全部を含むため、上記の統計は「満州国」における雑誌全般の地域的出版動向を反映していると考えられる。

(2) 雑誌出版の中心は奉天から新京へ移転。

新京と奉天の刊行総数を比較すると、新京のほうが上回っていることが分かる。しかし年代別に見ると、1935年以前は、新京7件、奉天23件であるが、1939年になると、新京57件、奉天52と逆転している。

さらに上記の『満洲国現勢』の1938年、1939年の内訳を用いて分析すると、1938年から1939年までの全体的な増加件数は40件ほどであるが、地域別に見ると、新京では24件増加し、奉天ではかえって8件減少していることが分かる。ほかの地域における増減に関しては、奉天に近い地域

にある錦州は6件の増加があったが、安東は増減がなく、熱河は1件の減少であった。それに対して中部及び北部にある濱江は6件増、吉林・間島は各3件増、龍江・三江は2件増、興安西は1件増であり、牡丹江・興安北は変化なく、全体としては17件の増加があった。雑誌はある程度その刊行地域における文化水準や民度を表しているため、その変化も当該地域における文化事情に関連しているとすれば、上記のような雑誌の増減は「満州国」における文化中心が建国当初の奉天あるいはそれを中心とした南満洲から、新京あるいは北へと移りつつあった過程を示していると考えられる。具体的には例えば1937年3月に奉天省撫順市で創刊された『明明』は1937年8月頃に新京へ移転しており、同様なケースはほかにもいくつか見られている。その背景には文化人の首都への進出と共に、文化資源が首都の新京へ集中し、雑誌などの出版にも影響を及ぼしたことがあると考えられる。

5. 創刊年代別から見える出版事情

表1から「満州国」以前の雑誌数も13件確認される。これらは全て日本人によって創刊されたものだというのが「一覧表」の記載をみれば分かる。これは「満州国」建国前に中国側から刊行された雑誌がなかったというわけではなく、むしろ日本側による雑誌のみが「満州国」建国後も続けられ、中国側から刊行された雑誌は9・18事変、さらに「満州国」建国の影響によってほとんどが廃刊を余儀なくされた証しである。

「満州国」建国後の雑誌創刊件数に関しては、1933年、1934年は非常に少なく、1935年から漸増し始め、1937年から1939年の3年間にピークを迎えた後は、創刊件数は減少しはじめている。しかし中国語雑誌の創刊件数のみで雑誌出版の盛衰を判断するのはやや危険であろう。むしろ創刊後の刊行事情を見るべく、つまり毎年の刊行件数が重要な指標となる。そこで、『満洲年鑑』に記されている「新聞紙・雑誌在籍比較表」（本稿の表2）を参照したい。

表2 新聞紙・雑誌在籍比較表²¹

| 年別 | 新聞(含通信) | 雑誌 | 合計 |
|------------|---------|-----|-----|
| 康德元(1934)年 | | | 53 |
| 康德二(1935)年 | 43 | 27 | 70 |
| 康德三(1936)年 | 41 | 49 | 90 |
| 康德四(1937)年 | 75 | 163 | 238 |
| 康德五(1938)年 | 113 | 262 | 378 |
| 康德六(1939)年 | 132 | 302 | 434 |
| 康德七(1940)年 | 137 | 286 | 432 |
| 康德八(1941)年 | 141 | 240 | 381 |
| 康德九(1942)年 | 35 | 305 | 340 |
| 康德十(1943)年 | 37 | 232 | 259 |

表2によると1938年から1942年までが新聞・雑誌出版のピークで、300件以上を維持しているが、1943年以降1937年並に減少している。雑誌のみの数字からしても1941年と1943年に激減していることが分かる。雑誌在籍数の激減の背景には、「満州国」政府の新聞雑誌への統制強化による統合政策及び出版業のおかれた厳しい環境があると考えられる。

ここでは「満州国」の印刷業界及びそれが雑誌出版に及ぼした影響について説明する必要がある、少し触れておきたい。

「満州」建国当初から1937年まで、「満州国」における雑誌の出版は印刷資材及び印刷技術などの制限から、原稿の作成及び編集などは国内で各自の手において行われていたものの、その印刷発行は主として日本内地の出版界に依存する傾向があった。1937年3月、満洲図書株式会社の設立と共に印刷設備等が整備され、それ以降印刷は徐々に「満州国」内で行われるようになったが、印刷用紙などは依然として日本からの輸入に頼らざるを得なかった。しかし、日中戦争が泥沼化するにつれて、日本国内における紙の生産も困難になり、特に1941年12月8日の太平洋戦争勃発後は、日本国内への供給でさえ厳しくなったため、「満州国」における印刷用紙難がより一層深刻化した。

当時、弘報処長を務めていた武藤富男は『私と満州国』²²において、「満州国」における印刷用紙の供給状況について、次のように述べている。

「昭和16年度の王子製紙による新聞巻取紙の生産予定は26万トンで、朝鮮、台湾などを含み、日本国内の使用量は23万4千トンが予定されています。従って、満州国への輸出は2万6千トンで、日本国内の使用量の1割強に過ぎません。しかも企画院はこれを減少しようとし、私たちはこれを増加せよ、と頼み、頭を下げているわけです。昭和17年、18年には更に減産となり、満州国では2万トンを手に入れるのが困難になるでしょう。そこで私は、日本における新聞巻き取り紙の独占的製造者たる王子製紙を満州国に持ってこようと考えている」。

さらに、「王子製紙は江別工場の製紙機械一切を佳木斯へ移送する工作に取り掛かった。現地では煉瓦建ての工場を完成、昭和20年夏、新潟港から日本海を越えて機会が来るのを待った。しかし、8月15日、機械一切は港に置き去りにされた」と回想しているのである。

このように、「満州国」国出版業界における印刷用紙の需要の増加に対し、日本からの紙輸入が徐々に減少し、1941年以降も、「満州国」の用紙難が改善されないまま、ついに終戦を迎えたことが分かる。

このような印刷用紙の欠如が雑誌に及ぼした影響について、大衆娯楽雑誌『麒麟』の例を取り上げてみよう。

『麒麟』は1941年6月に日本講談社の主導のもと、「満州国」弘報処から30万元の補助金を受けて設立した満洲雑誌社によって刊行された中国語雑誌であるが、武藤氏の証言によれば、その発行部数は20万にも達したということであり、『麒麟』の広告においても「満文雑誌」中の「東亜第一位」と誇っていた。『麒麟』が創刊された当時の体裁は菊版178ページで定価は4角（40銭）であったが、その五ヵ月後の1941年11月に、第1巻11月号から、印刷用紙の原因で、事前には予告もなしに、5角に値上げをするようになった。もちろん、11月号において「増価告読者書」を掲載し、そのやむを得ない理由を告白したわけであるが、筆者は中国語の原文²³を訳して引用したい。

「これは我々の不本意によることではあるが、本当に申し訳なく存じております。実は本当にやむを得ない苦衷があるのでございます。ご周知のように、現在、日本においても満洲においても、紙が非常に足りなく、特に、印刷用紙の買い求めが困難である。従って、近来、印刷用紙の欠如によって、停刊させられた雑誌も多数あったわけである。

（中略）

『麒麟』十月号までに使っていた印刷用紙は値段が非常に低廉なものでありましたが、そのよう

な紙は今後入手が不可能になっているため、やむを得ず今回の様な上等紙を使用することとなりました。しかし、その値段は元の紙の二倍半にもなっており、いろいろと検討した上で、雑誌方面では、補助金を以てその一部を賄い、あとは読者諸君に負担して頂かなければならず、よって、今後値段を5角とさせていただいたわけでございます。

(中略)

皆様、『麒麟』及び『電影画報』は凡て満洲雑誌社による雑誌でありまして、将来、用紙の欠如などの原因で廃刊になることは絶対にありません。わが雑誌社は政府及び満洲における印刷用紙の配給を総覧している会社、日本洋紙株式会社、及び洋紙統制組合並びに出版協会などから絶大の支持を得て、印刷用紙が永久に確保されているので、ぜひご安心くださいますよう」

上記の「増価告読者書」から、印刷用紙の不足は雑誌にも大きな影響を及ぼしていたことが窺われる。

実際、弘報処はこのような状況を踏まえて、1940年後半から雑誌社に対する統廃合を実施している。しかし、武藤の証言によれば、1940年末から実施された雑誌統合によって、廃刊となったのは殆ど、官庁、特殊会社、団体などの機関誌であり、大衆向けの民間雑誌、特に「満系」向けの「満語」雑誌はむしろ増加したようである。

当時、弘報処参事官を務めていた堀正武も、1941年12月号の『新満洲』において、雑誌統合に関する事情について同じようなことを書いた。

「一年前（1940年、筆者注）、弘報処に来て初めての仕事は当時諸官庁及び特殊団体の機関雑誌を統合することであった。先ず、腹案をたてて、各関係者を集め、その趣旨を説明した。方案を提示して協力を求めたが、幾たびもの折衝を重ねていたところ、うまく行かなかった。一度悲観を覚え、強制的な手段をとろうとしたが、強制手段をとる前に、最後の努力をしようと説得してみたら、意外に、ある会社が納得してくれた。その後、又もうひとつの会社も廃刊を声明してくれた。」²⁴

このように『麒麟』の例と関係者等の証言を対照しながら考えると、「満州国」政府は国内宣伝の必要性及び「満州国」出版業界の窮境をふまえ、中国語雑誌統合を強化し重点主義を取らざるを得なかったことが分かる。『麒麟』のような資金面や用紙で優遇された大手出版業者による雑誌でさえ、1943年以降は減頁及び廃刊を余儀なくされたのだから、不要不急と認定された雑誌の運命は想像に難くないだろう。

「一覧表」に示された情報と「満州国」出版業界を取り巻く環境から、「満州国」における中国語雑誌の出版が、1932年3月から1937年の「発展期」、1938年から1942年の「繁盛期」、1943年から1945年8月の「衰退期」の段階を経ていることが推定できる。

六. 終わりに

筆者は本稿において「満州国」中国語雑誌出版史に関する先行研究を探り、雑誌現物を発掘調査の集大成とされる『東北地方文献聯合目録』の問題点を分析したうえで、『満洲年鑑』、『満洲国現勢』、『満配月報』などに掲載した二次資料を活用して、通史的書誌研究の視点から「満州国」中国語雑誌一覧表を作成した。この「一覧表」はまだ完成品とは言えないが、当時年鑑類の二次資料にあ

る「満洲国出版雑誌目録」から見えた断片的な書誌情報を連続的な見えるように作り、「満州国」中国語雑誌出版の全体像を動態的に覗くことができるようにした。

本稿の冒頭に述べたように、雑誌の書誌的研究は二次資料だけでは不十分であるため、今後、地道に個別雑誌の発掘調査を重ねることによって「一覧表」を補完し、より鮮明な雑誌出版全体像を描く努力をしていきたい。

[注]

- 1 遼寧省図書館、1981。
- 2 封世輝、広西教育出版社、2000.4。
- 3 張毓茂、瀋陽出版社、1996。
- 4 1934年3月に創刊、1941年5月『麒麟』と改題。『新満洲』に掲載された『斯民』広告によれば、最高発行部数は10万部、「満州国」一といわれる。
- 5 『満洲年鑑』1933、p560-568。
- 6 『満洲年鑑』1936、p511-522。
- 7 『満洲年鑑』1937、p394-401。
- 8 『満洲年鑑』1938、p381-391。
- 9 『満洲年鑑』1939、p351-357。
- 10 『満洲年鑑』1940、p393-398。
- 11 『満洲年鑑』1941、p448-454。
- 12 『満洲年鑑』1942、p375-380。
- 13 『満洲年鑑』1943、p340-345。
- 14 『満洲年鑑』1944、p390-395。
- 15 1940年8月に満洲書籍配給株式会社（以下「満配」と称す）によって創刊された月刊誌。満配と下部配給機関の書店などとの業務連絡が主要内容とした機関誌である。創刊号の発行人は満洲図書株式会社理事長駒越五貞、編集人は満洲書籍配給株式会社調査課長木代三男である。1943年5月に『書光』と改題され、満配の機関誌から満配と出版協会の共同機関誌へ、内容的にも業務関係者向けから一般読者向けに変更された。創刊号の発行人は満洲書籍配給株式会社で、編集人は遠藤民郎となっている。使用言語については、『雑誌年鑑昭和17年版』（1942年）掲載の「満洲国雑誌目録」には日本語雑誌となっているが、筆者がコピーした『満配月報』第3巻1号には中国語の記事もある。使用言語の実態は不透明であるため、あえて「一覧表」に収録しなかった。
- 16 『満配月報』、第2巻第1号（1941年1月号）、p38-47。目録は1940年12月時点調べで、関東州が除かれた。
- 17 『満洲映画』は1937年10月30日に創刊の許可を得て、1937年12月、新京満洲映画協会によって創刊された映画月刊誌。1940年11月に、満洲映画協会を離れ、発行所は「大陸講談社」に変更されたが、1941年1月に、「大陸講談社」が「満洲雑誌社」と改められたため、雑誌の発行所も「満洲雑誌社」となった。1941年5月の第5巻第6号をもって、『電影画報』と改題されたが、雑誌の番号はそのまま連続して数えられ、内容にも変更がなかった。1944年10月号が現在確認できる最後のものである。
- 18 1939年8月11日に創刊の許可を得て、満洲漫画同人社によって創刊された月刊画報『漫画満洲』から改題された月刊画報雑誌。発行者は、1941年5月改題された時点では満洲社、1942年2月時点では芸文社、1942年3月から芸文社を離れて独立し、月刊誌から半月刊となる。廃刊について定説がないが、『中国淪陷区文学大系（史料巻）』（2000、p566）によれば、「1942年6月第9号まで刊行された」といわれている。それ以降の

雑誌は筆者も見当たらないが、1944年版『満洲年鑑』p390に掲載の雑誌一覧表にて、1943年10月時点では刊行されていたことが確認されている。

- 19 『満洲国現勢』1939、p462においては雑誌の総数について263件と書かれているが、内訳を合計してみれば264件だったことが判明する。
- 20 『満洲国現勢』1940 - 1941年併合本p500には、雑誌の総数は302件だと記されているが、合わせてみると304件だった。
- 21 『満洲年鑑』1944、p386を参照。ただ元の「比較表」には1934年、1943年の数字がなく、筆者が1936年版『満洲年鑑』を参照して、1934年合計数を1944年版『満洲年鑑』に掲載された1943年10月時点の新聞雑誌数を付け加えたものである。
- 22 文芸春秋株式会社、1988、p324参照。
- 23 原文は「這實在出乎我們的本意、我們覺得万分抱歉、但是、這完全是因為發生了不得已的苦衷！諸位許知道、現在不論日本或滿洲、紙料都是相當的缺乏、尤以印刷用紙、更是購買困難、因此在這期間內甚至許多雜誌、因為紙的缺乏而停刊了。中略。「麒麟」十月号以前所用的紙、價格上非常低廉、但是這種紙、現在入手困難、於是就不得不改用上等的紙了、但是、這種紙的價格、較從前紙價貴兩倍半、所以經種種的研究的結果、決定雜誌方面、從補助金担負一部分、而另一部分、只好請讀者諸位負擔了、所以把定價改為五角。中略。請讀者放心、「麒麟」以及「電影畫報」凡是滿洲雜誌社所發行的雜誌、將來絕不會因為用紙缺乏而停刊、因為我們有政府以及滿洲方面用紙配給的總攬會社、日本洋紙株式會社、及洋紙統制組合並有出版協會等、絕大的支持及盡力、確保用紙的永久性、所以請讀者們安心」
- 24 原文は名士随筆「雰囂気」、『新満洲』第3巻12月号p37に掲載。「在一年以前、入到弘報處、第一件着手处理的、便是當時諸官庁以及特殊団体雜誌の整理統合、先作成腹案、招集各關係者、説明趣旨、提示方案、請求協力、以後又一再の折衷、終未能如意、一時曾抱悲觀、也曾決心要採強制手段、又想、在採強制手段以前、應再作一番最後的努力、這回居然有一個會社、自動的要把自己的雜誌廢刊接連着又有一個會社也聲明廢刊」

参考文献

- 1、岡村敬二「解題『満洲国出版目録』」『満洲国出版目録 第1巻』（p241-268）金沢文圃閣、2008年8月
- 2、岡村敬二『満洲国出版目録 第8巻（民間出版物2）』金沢文圃閣、2009年8月
- 3、岡村敬二『満洲出版史』吉川弘文館、2012年12月
- 4、王光烈『新満洲』（第3巻第12号）、満洲図書株式会社、1941年12月
- 5、木代三男『満配月報』（第2巻第1号）、満洲書籍配給株式会社、1941年1月
- 6、張毓茂『東北現代文学大系』瀋陽出版社、1996年12月
- 7、東北地方文献聯合目録編輯組『東北地方文献聯合目録（第一輯報刊部分）』遼寧省図書館、1981年10月
- 8、封世輝『中国淪陷区文学大系（史料巻）』広西教育出版社、2004年4月
- 9、満洲国通信社『満洲国現勢』（建国・大同二年版、康德二年～康德六年版、康德七・八年版、康德九年～康德十年版）満洲国通信社、1933年、1935年～1939年、1940-1941年（合本）、1942～1943年
- 10、満洲日日新聞社『満洲年鑑』（昭和11年～昭和20年版）満洲日日新聞社、1936年～1944年
- 11、満洲日報社奉天支社『満洲年鑑』満洲日報社奉天支社、1945年
- 12、満洲文化協会『満洲年鑑（満蒙年鑑）より改題』満洲文化協会、1933年
- 13、武藤富雄『私と満洲国』文芸春秋株式会社、1988年9月
- 14、劉曉麗「偽満洲国時期文学雑誌新考」『中国現代文学研究叢刊』中国現代文学研究会、2005年
- 15、劉曉麗・葉祝弟『創傷 東亜植民地と文学』上海三聯書店、2017年2月

Comprehensive Survey of Chinese Magazines During Manchuria

Dongyang SHI

[Abstract]

For the nearly 10 years, Japan published the series of *Manchuria Publishing Catalogue*, *Manchuria Publishing History* and other researches about Manchuria publications, which are the masterpieces in this field. However, the studies of Japanese researchers mostly focus on Japanese publications, and rarely involve Chinese publications. The most important research in China is a series of *Collation and Research of Literature Original Materials in Manchukou*, which were compiled by Liu Xiaoli, Professor of East China Normal University, in January 2017. Although the volume of historical archive covers literature magazines and literature newspaper supplements, no research results have been found on the general history and bibliography of the Manchuria Chinese magazines. In this paper, the author hackle the materials in period of Manchuria which related to *Joint Catalogue of The Northeast Local Literature* and *The Almanacs of Manchuria*, organized the Manchuria Chinese magazines into a "list of Manchuria Chinese magazines", and made a brief analysis of the publications of Manchuria Chinese magazines from the dynamic perspective.

[Keywords]

Manchuria, publication, Chinese magazines